

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・日用品は売上の伸びは変わらないがギフト用品がかなりの勢いで売れている。全体的にみるとギフトの勢いに引っ張られて売上が伸びている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・生活支援強化として品揃えの充実を図っているが、品ぞろえを大幅に増やしたことで買上点数が増えた。買上単価も増えており売上が2ポイント程度上昇している状況である。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・売上の1割ほどがワイシャツのオーダーだが注文の仕方に変化がある。面倒だからなのか丁度良い機会との考えなのか、まとめ買いが増えてきている。こじばらくなかった傾向である。
		住関連専門店（役員）	来客数の動き	・週により変動はあるが、平均的に前年比の約120%の来客数増加で推移している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・昼の営業は、県外からの団体旅行が例年並みにあり、夜の営業は法人や組合、協会の総会後の会食が例年通り受注できたことで安定した集客があった。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・期末に団体客が入り、前年同月比で若干良かった。ただ、外的要因による株の値下がりなどで客の顔はさえない。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・通信技術の進歩もあってインターネット通信を取り巻く環境は大きく変化している。新商品、新サービスの利用に際して高速通信に対するニーズは確実に高まっており、光通信サービスの新規契約数は着実に伸びている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・あまり変化がみられない。昨年と変わらぬ動きである。
		商店街（代表者）	それ以外	・6月の中心市街地再開発による商業施設のオープンにより、近隣商店街の通行量は増加しているようである。ただ、商店街店舗の売上増加に結びつくまで行かず、ほとんど変化がなく従来通りである。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	単価の動き	・北陸新幹線開業から1年超が経過し、落ち着きを取り戻したようでやや静かになった。相変わらず観光客は多いが、去年と比較して飲食や土産品に使われる金額がかなり落ちた。このことは、消費単価が低く生魚などが苦手なインバウンド客が増えたことが一因と思われる。土産店やホテル、飲食店などどこに聞いても同じ答えになっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客の様子をみても特に変わったという感じはみえない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客の買上単価は下がっているようである。買上点数的にも、さほど先月と変わっていないのが現状である。1品当たりの単価も下がっているようである。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・気温の上昇で夏物関連の動きは上がったが、全体としては昨年並みで推移していることから変わっていない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・特にウィークデーにおいて、ここ数か月間は前年比で同じような数字が並んでいる。競合チェーン店が揃い踏みとなってからの落ち込んだ数字は回復していない。
		コンビニ（店長）	それ以外	・別業種の方から最近景気が良くなっていると聞いた。身の回りからはそうは感じられないが、客からそういった話を聞いたので実感とは別に景気が良くなっているのではないかと。英国のEU離脱問題で今後の事は現段階では読めないが、身の回りの客はそういった感想を持っている。自店舗の売上は横ばいが続いている。良くも悪くもないのが現状である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・6月の前半は真夏日がありエアコンなどの夏物商品が好調であったが、期待値を大幅に超えるほどではなかった。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今月も軽自動車販売の落ち込みが続いている状況は変わらない。回復の兆しがなかなか見えない。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・政府のマイナス金利政策、熊本地震の影響、最近では英国のEU離脱問題など景気への逆風が強くなっている。

自動車備品販売店（役員）	来客数の動き	・新車販売台数の低下も影響して来客数が減少しており、ガソリンスタンドの給油客が更に減少した。買上点数や給油量も下がり厳しい状況は変わらない。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・来月はお中元が始まるので期待しているが、今月は可もなし不可もなしという状態である。	
その他小売〔ショッピングセンター〕	販売量の動き	・食料品、衣料、住まいの品において、いずれも季節物が動き出して買上単価は前年を維持できたが、競争が激しい地域の店舗では引き続き買上客数の前年割れが続いている。より安さを求める購買行動が目立ってきている。	
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・北陸新幹線開業の前年並みの来客数、売上を維持している。	
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上91%、宿泊人数91%、消費単価100%と新幹線効果が少し薄れてきている。予算対比でも総売上は98%だが、15名以下の個人客は前年数字を確保している。団体客が減少したのが低下の要因である。	
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊客数、客単価ともに前年をやや下回っているが、想定していたほどは下がっていない。宴会部門は前年並みに推移している。レストラン部門は高単価のメニューは売れず、地元客の利用も引き続き回復していない。	
通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来客数は増えているが実際の購入につながるケースは少なく、プランの見直しで月々の利用料を安くしたい客が増えている。	
通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・TVCMなどの影響か一旦来客数が回復したものの持続せず、再度下降気味である。	
その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・年間で一番会員が増やせる第1四半期だが一進一退である。	
美容室（経営者）	それ以外	・高価格のドライヤーや新しく取り入れた化粧品の売上が好調である。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売金額、販売数量ともに3か月前と変化がない状況であるが、新規客の動きが少なく今後は少し厳しくなりそうである。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税増税の再延期で客の動きが落ち着いた。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・イベントには人が集まるが、総じてお金を使うことに関してはシビアであると感じる。通院する老人の数でさえ、節約のため減っているように見える。地方ではこれまでにないほどの不景気感が漂っているようである。
	一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・商談中の案件や客からの引き合いが減り、売上全体が減少している。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・客の購買の様子が非常に慎重で、じっくり中身や内容などを検討している。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・価格志向が依然強く、衝動買いやまとめ買いの需要が減っている。必要最低限のものしか買わない客が多い。カード会員向けの優待会を開催し、電話作戦やハガキを郵送し来店を促しているが客の反応は鈍い。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・お中元ギフトセンターを開業しているが、半年に1度だけ来店するような客の数が減っている。インターネットによる注文が多くなってきていることから、そのような客の来店が減ってきている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が少なく、セール待ちの声も早くから始め、売上に結びつかず苦戦している。長く使えるものを求める人が多く、季節商材の動きが悪い。
	スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・食品スーパーの改装が増加している。売上が減少しているため店舗改装することで集客効果を高めようとしている。実際に改装後は商品の種類を増やすなどして来客数が伸びているようである。
	スーパー（店舗管理）	競争相手の様子	・新規競合店の出店に伴い、影響がないと思われる企業までも販促強化を実施しておりエリア内での販促が激化している。また、新規出店企業も苦戦している状況である。
	コンビニ（店舗管理）	競争相手の様子	・人件費の高騰、人手不足は歯止めがかからない状況である。近隣のファーストフード店は営業時間短縮に踏み切っている。

		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・前年より来客数は減っていないが客単価は下がっている。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・客の購買動向は必要なものを必要なだけと慎重に買っている。同業者の大半は売上を落としており現状はたいへん厳しい。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車、中古車ともに売上が大きく計画を下回っている。新規の来客数も少ない。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・6月の販売量は前年同月比で103%の見込みである。3月の販売量は前年同月比で107%であったので3ヶ月前と比較してやや下向きである。
		その他小売 [ショッピング センター](統括)	来客数の動き	・客単価をみると客の購買意欲自体は大きく変わっていないが、周辺競合環境の影響により来客数の減少が見られる。また、昨年度に実施したりリニューアルの反動により、ホビー、シネマ以外の業種、特に衣料品、服飾品、食料品、飲食業種は苦戦が続いている。
		一般レストラン (統括)	来客数の動き	・町全体が少し静かになった感じがする。主に地元客が利用する飲食店の来客数は現状維持以上だが、新幹線開業効果によって潤った客単価がやや高めの飲食店の来客数は特に落ち込みが目立つ。
		旅行代理店(所長)	販売量の動き	・新幹線効果の特需旅行で上がった前年の取扱件数に追いついていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・6月に入って観光客が少なくなってきた。週末だけのタクシー利用で平日の利用が減った。国政選挙がある時は繁華街の人出が減る傾向にある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今は梅雨時で雨が降っていても乗車の回数がそれほど伸びない。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・3か月前の商戦期後から、客からの問合せ数や契約数が減少したまま伸び悩んでいる。
		競輪場(職員)	来客数の動き	・前年の同じG1開催に比べ来客数が減少している。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注額は月を追って減少してきており、次年度の決算数字に影響が出てくる状況になってきた。消費税増税が再延期になったことから客の動きが鈍くなってきているのが要因である。
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・販売数だけでなく、販売物件1戸あたりの単価が小さくなってきている。
	悪くなっている	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・7月10日の選挙の影響などでお中元時期がやや遅れるのではといった懸念はあった。英国のEU離脱問題に関連しての株価の低迷であったり円高の問題であったり、いろいろな経済的な要因で消費の冷え込みは顕著になり、ほとんどの商品群が前年売上を下回るのが現状である。
		テーマパーク (役員)	来客数の動き	・昨年は北陸新幹線開業をはじめ様々な話題により国内の団体、個人ともに来客数が増加したが、1年が経過し前年同月と比べると落ち着きを見せている。また、これまで増加傾向にあったインバウンド客が円高などの影響もあり2けたの減少になっている。トータルで見るとマイナス幅が大きい。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が増えている。
		不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者の話によると、景気がよいという話が半分ほど聞こえてきており、残りの半分は動きが鈍いとするものの全体的によい方向に判断している。
	変わらない	食料品製造業 (役員)	受注価格や販売価格の動き	・為替が円高傾向に振れてきたため輸入原材料価格が下がっているが、影響が出てくるのは3か月後からである。現状では販売価格はそのままだに原材料価格は高止まりして厳しい状況が続いている。
		繊維工業(経営者)	取引先の様子	・衣料全体の動きは非常に悪い。非衣料関係は安定している。
	やや悪くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・主力のスポーツ用品、アウトドア関係商品の動きが悪く受注で苦戦している。特に、付加価値商品は為替の影響により受注が止まっている。
		一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧州市場からの受注が昨年に比べて半数に落ちている。

	一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・為替相場の円高基調がジワジワと業績に影響を与えつつある。外貨建ての輸出については直接利益に影響を与えるが、円建ての輸出については現地における当社製品の価格上昇を招き、競争力が低下し受注量の減少を引き起こすことになるが、実際にそれらの影響が出始めているかは計れないところである。
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・当社への影響は最小限に留まっているものの、ここ数か月は今まで好調だった国内高価格帯マーケットが金額的、数量的にも縮小している。営業からの情報では全体的には2桁以上の縮小とのことである。それに従っていくつかの大手顧客は引き続き仕入れ制限をしているようである。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年のこの時期は公共工事の発注が少ないが、今年は昨年よりも発注が遅れているようである。社員の手が空いてきているので民間工事を安値で受注している。
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・当地域において受注価格競争の激化が続いており、採算を確保した受注は一段と厳しさを増している。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・英国のEU離脱問題の影響で円高となり輸出関連の繊維や機械などの出荷が減っている。夏の参議院選挙の動向が見えず一般消費の物量も鈍くなっている。
	金融業（融資担当）	競争相手の様子	・金融政策の影響と資金需要の拡大が見られず、新規の長期貸出金利が一部の優良企業においては極端に低下してきている。収益環境は極めて厳しい。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・公共工事が少なく、建設業者の売上が低迷している。一部で低入札の工事受注の動きが出ている。
	司法書士 税理士（所長）	取引先の様子 取引先の様子	・事業承継者が不在のための会社解散が多い。 ・以前から景気は下向きだと思っているが、中小企業では円高の関係で、今後3～4か月先の輸出案件向けの受注案件が延期になる、あるいは中止になるという予定が聞かれて先行きへの不安が出ている。また、円高ということで経営者の心理も冷えており、夏のボーナスがあまり上がらないということで個人消費の方にも影響が出る心配がある。
	悪くなっている	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-
(北陸)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数が増加傾向にあることに加え、新規求職者数は前年同月を下回っている状態で就業状況は良い。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き ・以前と変わらず派遣システムへの登録数が少なく、受注案件のマッチング率が伸びない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き ・短時間勤務の求人広告を掲載したところ、家事や育児と両立できる要件で応募する女性求職者が多かった。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き ・6月の求人広告売上は前年同月比で8割である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外 ・求人広告は6月は前年比50%強と苦戦した。広告主にヒアリングをしたが、人手不足感は一昨年からはあり昨年は出稿を増やしたが効果が表れず、今年になって予算を削減するという動きが目立った。働き手の不足感の大きさに加え、求人広告に対する成果の無さから投資疲れが起きている。報道でも出ている有効求人倍率の高さを考えても大きく就業状況が変化しているとは考えにくい。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子 ・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、原材料費が高くなっている中で加工費などの価格は落ちており利益がないとの声も多く、全体として変わらないと感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・5月の新規求人数は3,629人と、依然と高い数値にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き ・求人件数は3～4月よりは勢いが無いものの総数では昨年並みの件数となっている。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・1回の求人発行で100件ほど掲載件数が下がっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き ・求人数が減少している。前年に比べ40～50%の推移。派遣も長期は少なく短期や臨時的な求人が主流となっている。
	悪くなっている	-	-